

令和2年度 教育方法改善のための 自己点検・評価（授業評価等）実施状況調査票

1. 学生による授業評価

(1) 実施状況

別紙1「令和2年度 授業評価実施状況一覧」のとおり

(2) 実施組織

学部等	大学側（学生側）
大学教育・ 学生支援機構	大学教育学生支援機構 大学教育センター学部教務委員会・教養教育部会
共同教育学部 教育学研究科	共同教育学部教務委員会
社会情報学部 社会情報学研究科	社会情報学部教務委員会 社会情報学研究科学務委員会
医学部 医学科	医学科教務部会（医学科学友会）
医学部 保健学科	保健学科教育課程専門委員会
医学系研究科	医科学専攻教務委員会 生命医科学専攻教務委員会
保健学研究科	保健学研究科教務委員会
理工学部 理工学府	理工学部教務委員会 理工学府教務委員会

(3) 実施方法

学部等	実施方法
大学教育・ 学生支援機構	実施科目及びアンケート項目について教養教育部会で審議のうえ、大学教育センター学部教務委員会において実施を決定し、教務システムを利用してアンケートを実施した。
共同教育学部 教育学研究科	WEBを利用してアンケートを実施した。 なお、このアンケートによる評価になじまない実験、実技、実習などの講義以外の授業では別途「授業改善報告書」を教員が作成して教務係へ提出する方式をとった。
社会情報学部 社会情報学研究科	教務システムのアンケート機能を使用したWebアンケート
医学部 医学科	医学科の学生自治組織である学友会が主体となり、1年次から6年次の各学年に対して、授業アンケートを実施し、回収・集計結果を医学科教務部会に報告している。 4～6年次の臨床実習（必修）及び臨床実習（選択）については、教務部会が主体となり実習プログラムごとに学生による評価を行っている。
医学部 保健学科	平成26年度から本学で導入されている教務システムのアンケート機能を活用して、平成27年度からWebによるオンラインシステムで授業評価アンケートを実施している。対象となる授業科目は、保健学科全ての専門教育科目である。

医学系研究科	教務システムのアンケート機能を活用し、医科学専攻の基礎連続講義及び医学基礎技術実習の履修者並びに生命医科学専攻の基礎科目の履修者を対象にアンケートを行った。
保健学研究科	授業実施中に、教員が学生に WEB アンケートへの回答を依頼した。
理工学部 理工学府	教務システムのアンケート機能により、理工学府専任教員が担当する理工学府・理工学部の全科目を対象として、中間調査（意見任意）及び最終調査を実施した。

(4) アンケート結果に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例など
大学教育・ 学生支援機構	<p>【結果概要】 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、主にオンラインでの授業実施となったが、すべての項目において、「あてはまる・ややあてはまる」といった肯定的な回答が7割を超えており、前年度と比較しても、大きな変化はなかった。</p>
	<p>【課題】 学びのリテラシー（2）において、前年度と比較し「授業がアクティブラーニングであった」と回答した割合が減少した（令和元年度 90.5%、令和2年度 83.9%）。オンライン授業の影響もあることが想定される。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 前年度に引き続き、授業担当教員に対し、アンケート結果を通知する際に、アクティブラーニングの充実について依頼した。</p>
共同教育学部 教育学研究科	<p>【結果概要】</p> <p>① 学部学生の授業満足度では、9割以上の学生が肯定的な評価をしている。（「満足している」「どちらかという満足している。」）また、大学院学生の総合評価では、8割以上の学生が「優れている」「やや優れている」と、肯定的な評価をしている。</p> <p>② アクティブラーニング型授業の導入率は約7割であり、それらの科目のうち「問題解決能力が身についた」と学生が回答した科目数は約5割であった。</p>
	<p>【課題】</p> <p>① 全体から比べると小さな割合だが、「授業の進め方」「説明内容の分かりやすさ」において、改善すべきとの評価をしている学生がいる。</p> <p>② 授業を履修する際にシラバスを参照しなかった学生が約2割5分いる。</p>
	<p>【具体的な改善事例】</p> <p>① どの学生も一定の予習が必要となるように、課題の出し方を変えた結果、全員が一定水準以上の予習を行い、発表に臨むようになった。</p> <p>② Zoomによる双方向のコミュニケーションを心がけた結果、学生からも肯定的なフィードバックが得られた。</p> <p>③ パワーポイントをできるだけ作成し直すなどして、明確に分かりやすく改良修正した結果、具体的な質問も多くみられるようになった。</p>
社会情報学部 社会情報学研究科	<p>【結果概要】 H29年度よりwebアンケートに切り替え、回答率の低下が問題になって</p>

	<p>いたが、R2年度は教務係から複数回アンケートへの回答を呼びかけるメッセージを教務システムより送信したことにより、R1年度よりも大幅に回答率が上昇した。</p> <p>なお、この授業を四段階で評価してくださいとの項目で、前後期ともに8割以上の学生が「優れている」「やや優れている」と回答しており、授業については総じて高い評価であった。</p> <p>【課題】 回答率の向上。</p> <p>【具体的な改善事例】 例年は掲示、教務システム、授業内でのアナウンス等で学生へ周知し回答を促していたが、コロナウイルス感染症対策のため、多くの授業がオンラインになったことにより、掲示によるアナウンスを教務システムのメッセージで送信する方法に変更した。</p> <p>なお、教授会でアンケート結果について教員に周知し、各々の授業改善の参考とした。</p>
医学部 医学科	<p>【結果概要】 アンケートは科目単位または診療科単位で集計され、今後の授業内容や実施方法の改善のために教員にフィードバックされている。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のためにオンライン授業が主体となったことに関する要望が多くあがった。</p> <p>【課題】 オンライン授業では配付資料を学生自身が印刷することから、枚数の削減や、スライド背景を無地にするなどの要望があがった。</p> <p>臨床実習も時期や診療科によりオンライン実習となったため、患者さんに接する機会や技能を修得する機会の減少も課題としてあがった。</p> <p>【具体的な改善事例】 授業及び配付資料に関する要望は、医学科FD内で学生代表から発表してもらい、教員への周知を図った。</p> <p>オンライン臨床実習による技能習得機会の減少を保障するために、シミュレーション教育の充実を図ることとした。</p>
医学部 保健学科	<p>【結果概要】 平成26年度までは、授業担当教員を通じて紙媒体で実施し、6割程度の回答率であったが、平成27年度から、教務システムを活用してのWebによるオンラインシステムでの実施方法に移行したところ、回答率が低下し、平成29年度後期の回答率は31.4%であった。</p> <p>そのため、平成30年度は事務方から学生に複数回メールで連絡するとともに、各授業担当教員からも授業時に口頭で周知するなど保健学科全体として回答率の向上に努めたところ、平成2年度後期の回答率は67.2%になった。</p> <p>【課題】 アンケート結果について、「この授業に対する総合評価をしてください」との問いに対しては、優れているが占める率は68.5%との結果になっており、概ね高い評価を得た。</p> <p>また、「授業は学生の主体的な参加を促すものでしたか」との問いに対して、そう思うが占める率は66.1%との結果になっており、アクティブラーニングにより教育効果の高い授業を实践する目的は達成されていると考え</p>

	<p>る。</p> <p>【具体的な改善事例】 保健学教育FDにおいて、教員に対してアンケート調査を実施しており、教員はアンケートに回答することにより、授業評価アンケート結果を教務システムから閲覧できること、授業評価アンケート全体の結果を公開していることを認識し、更なる授業の改善に努めている。 また、アクティブラーニングに関する質問項目を入れることにより、アクティブラーニングへの教員の意識付けを再確認している。</p>
医学系研究科	<p>【結果概要】 授業の全体的な評価は、前期は「非常に良い」が50.0%、「良い」が44.1%、後期は「非常に良い」が66.7%、「良い」が39.2%となっており、9割以上が肯定的な意見となっている。</p> <p>【課題】 留学生から、日本語での授業では理解が難しいとの声が見受けられた。英語化に係る対応を進めているが、授業以外の部分を含め全般的に対応が十分ではない状況にある。</p> <p>【具体的な改善事例】 前年度から引き続き、留学生が履修登録している授業については、極力英語での授業の実施または授業で使用する資料の英語化を進めている。</p>
保健学研究科	<p>【結果概要】 対象者の人数が少なく、選択形式の回答のみでは個々人が考えていることがつかみにくいため、改善策を見出すことが難しい点があった。そのため、自由形式の回答に積極的に意見を書いてもらうように学生に依頼した。</p> <p>【課題】 オンライン講義について社会人学生は移動が不要なこともあり、好意的な意見が多かった。また、学生によっては自分のパソコンで資料を閲覧することや音量を調節できることも利点として挙げていた。一方で、講義の内容によっては対面を希望する学生もいた。そのため、対面での講義が可能となった際にオンライン講義を継続するか、継続する場合はどの程度の割合をオンラインで実施するか、対面とオンラインのハイブリッド型の形式を取り入れるのかなどの点について検討する必要があるため、研究科教務委員会で具体的な方策を検討することとした。</p> <p>【具体的な改善事例】 引き続き学生には自由解答欄への記載を促し、来年度以降の授業に関する意見を募る。</p>
理工学部 理工学府	<p>【結果概要】 本アンケート結果に関する学生と教員との懇談会を学科単位で開催し、意見交換を実施、それらを踏まえて学科内での点検を行った。</p> <p>【課題】 前期よりも後期のほうが、回答率が低くなる傾向がある。また、授業科目によって回答率に差がみられる。</p> <p>【具体的な改善事例】 後期の回答率を上げるために、教務委員会等を通じて授業担当教員の協力を求める。</p>

2. 学生との懇談会

(1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	大学側参加者数	学生側参加者数	内容
大学教育・学生支援機構	学長と学生との懇談会	R2. 12. 9	7名	8名	・オンライン授業について ・教養教育について
共同教育学部 教育学研究科	学部長との懇談会	R3. 2. 9	6名	3名	学習環境, 授業内容等
	院生との懇談会	R2. 12. 17	6名	17名	カリキュラム, 学習環境等
社会情報学部 社会情報学 研究科	学生と学部長との懇談会	R2. 10. 28	11名	9名	学部長と学部学生との懇談
	学生と研究科長との懇談会	R3. 1. 22	6名	6名	研究科長と大学院生の懇談
医学部 医学科	令和2年度医学科学学友会との懇談会	R3. 2. 3	27名	10名	学生代表である学友会と学科教務部会を中心とした教職員で, 授業や施設等について意見交換を行った。
医学部 保健学科	該当なし				
医学系研究科	該当なし				
保健学研究科	該当なし				
理工学部 理工学府	授業改善アンケートに関わる学生と教員との懇談会 (化学・生物化学科2年生)	R2. 10. 1	教員 20名	178名	前期アンケート実施科目全ての集計結果に対する教員からの回答について, 分野ごとのカリキュラム委員から説明し, 教員と学生間で意見交換を行った。
	授業改善アンケートに関わる学生と教員との懇談会 (化学・生物化学科3年生)	R2. 10. 5	教員 20名	169名	前期アンケート実施科目全ての集計結果に対する教員からの回答について, 分野ごとのカリキュラム委員から説明し, 教員と学生間で意見交換を行った。
	2年生と教員との懇談会(機械知能システム理工学科)	R2. 12. 8	教員6名	128名	授業アンケート結果のフィードバック及び学生と教員との意見交換
	3年生と教員との懇談会(機械知能システム理工学科)	R2. 12. 24	教員2名	118名	授業アンケート結果のフィードバック及び学生と教員との意見交換

	学生（2年生）との懇談会（環境創生理工科・環境エネルギーコース）	R3. 1. 29	教員 3名	2名	授業アンケート結果に対する教員コメント紹介及び教員と学生とのカリキュラムに関する意見交換
	学生（3年生）との懇談会（環境創生理工学科・環境エネルギーコース）	R3. 1. 2	教員 2名	28名	授業アンケート結果に対する教員コメント紹介及び教員と学生とのカリキュラムに関する意見交換
	学生と教員との懇談会（環境創生理工学科・社会基盤防災コース）が	R3. 1. 14	教員 6名	2年生 2名 3年生 3名	授業及び学生生活（特にコロナ禍での）に関する学生と教員との意見交換
	授業改善に関する懇談会（電子情報理工科学科・電気電子コース）	R2. 11. 18	教員 3名	3名	授業アンケート結果に対する教員からのコメント紹介及び教員と学生との意見交換
	授業改善アンケートに基づく懇談会（電子情報理工科学科・情報科学コース）	R3. 1. 25	教員 1名	14名	授業改善アンケート結果の照会及び学生との意見交換
	理工学府長と学生との懇談会	R2. 12. 23	教員 4名	15名	理工学部・学府の教育方法に関する学生の意見聴取を主とした、理工学府長と学生との懇談

(2) 懇談会での意見に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
大学教育・学生支援機構	<p>【結果概要】 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため学生の参加者を減らして実施した。また、内容を例年と一部変更し、オンライン授業に関する事項を中心に意見交換を行った。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登校できないことによる学生同士及び学生と教員とのコミュニケーション不足 ・中間テストや期末試験がなく課題提出が多くなり、課題作成に時間がかかった ・提出した課題のフィードバックがない又は遅い ・対面でのオリエンテーションがなく、履修登録が困難だった（先輩にも聞けない） ・オンライン授業で面識のない学生とのグループ発表資料の作成が大変だった（英語）

	<p>・大学の方針や決定された大事な連絡が遅い</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <p>・令和3年度は、履修クラスが決まっている必修科目の履修登録を事務で行ったことにより、学生の負担が軽減された</p> <p>・教養教育のオンライン履修相談会（R3.4/13・4/14）を開催し、学生からの質問対応を行った</p> <p>・オンライン授業によるグループ発表方法については、英語の場合、令和3年度から導入の統一カリキュラムにより、グループ発表時間を確保し改善を図った</p>
共同教育学部 教育学研究科	<p>【結果概要】</p> <p>① 設備、カリキュラム、実習等について要望があった。また、コロナ禍におけるオンライン授業に関する要望（課題の過多等）があった。</p> <p>② 事前に学生に意見照会した内容を基に、院生と意見交換を行った。</p> <p>【課題】</p> <p>① 学部においては、設備面、駐車場の改善を求める学生が多い。</p> <p>② 大学院においては、オンライン授業における授業の進め方や資料配布、課題提出について、3コース間での連携や情報共有、年間のスケジュール分かりやすく示して欲しいなどの声が挙げられた。</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <p>学部において、コロナ禍におけるオンライン授業での課題の多さの指摘については、丁寧に学生に自宅学習の必要性を説明するとともに、教員間で情報共有した。</p> <p>大学院においては、オンライン授業についての課題を教員間で共有するとともに、年間集中講義日程表を作成するなどコース間の情報共有について配慮することとした。</p>
社会情報学部 社会情報学研究科	<p>【結果概要】</p> <p>例年、学生の参加者が少ないため、事前に掲示、教務システムでの周知、担当学生からの声掛けを行ったが、参加人数は増えなかった。</p> <p>【課題】</p> <p>学生の参加者数を増やす。 学生との意見交換内容は別紙報告書のとおり。</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <p>もっと早い時期から学生へ周知を行う。 学生からの意見・要望への対応は別紙報告書のとおり。</p>
医学部 医学科	<p>【結果概要】</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のために臨床実習もオンラインで実施せざるを得ない期間が長かった。オンライン臨床実習の動画供覧や課題などで勉強することができたという意見があった一報でベッドサイドでの経験が十分積めなかったことを心配する声があった。 自習室利用の再開を求める声が多かった。</p> <p>【課題】</p> <p>病棟に入れない時期も、実技を学ぶ機会を増やす必要がある。 自習室利用を再開できるように、時期や条件を検討する必要がある。</p>

	<p>【具体的な改善事例】 シミュレータ等を活用し，病棟に入れない時期にも実技を学ぶ機会を提供していく。 新型コロナウイルス感染症の拡大状況を勘案しつつ，自習室を利用できる機会を増やしていく。</p>
理工学部 理工学府	<p>【結果概要】 (理工学府長と学生との懇談会) 令和2年度は，コロナ禍でのオンライン懇談会を行った。司会はシナリオを作成し，懇談項目の所要時間を予め区切ることで，円滑な懇談ができた。対面と違い，発言がしにくい状況の中，発言しない学生が出ないように，事務が発言者を画面上でチェックしながら司会者にチャットで情報提供し，司会者が全員に発言させるように進めた。これにより，参加学生全員がテーマに沿った懇談を行い，自由討論の中で要望を聴取することができた。</p> <p>【課題】 (理工学府長と学生との懇談会) 対面授業ができず，オンライン授業では他の学生，教員との意思の疎通が取りにくいなどの意見があがった。また，黒板を使っている先生がいて見づらかったなど，オンライン授業の進め方が教員によって違うことについて，とまどうことがあるとの意見があがった。</p> <p>【具体的な改善事例】 (理工学府長と学生との懇談会) 令和3年度からは，ハイブリット型授業を導入して，学生が半数ずつ1日交替で対面授業を受けられるようになった。</p>

3. FD活動

(1) 実施状況

学部等	実施組織	名称	実施月日	教員参加者数	内容
大学教育・学生支援機構	大学教育・学生支援機構 大学教育センター	第12回全学FD連続講演会 「大学教育のグランドデザイン」	R2. 9. 11	315名	令和2年度前期の「オンライン授業」に関して、工夫した点、困った点、今後の課題等について、各学部等から推薦された教員による講演
	大学教育・学生支援機構 大学教育センター	令和元年度群馬大学ベストティーチャー賞 公開模擬授業	R1. 9. 8 ～ R1. 11. 20	176名	学長賞受賞者3名による公開模擬授業を実施 (Moodleでのオンライン研修)
教育学部 教育学研究科	共同教育学部(オンライン授業実施推進チーム)	オンライン授業FD	R3. 2. 17	79名	オンライン授業実践例、ツールの照会等
	教員養成FDセンター	附属学校園・公開研究会	R2. 10. 17 外2件	21名	幼児にとって必要な教育課程を考える 外
	教員養成FDセンター	教育実A,C,D及び幼稚園教育実習	R2. 9. 13 外11件	—	※コロナ禍のため教員参加は中止
	教員養成FDセンター	附属学校園における大学教員の公開授業	R2. 9. 3 外5件	6名	古典を読み「ものの考え方」を学ぶ 外
	教員養成FDセンター	新任教員FD研修会	R2. 7. 17 外2件	15名	教育学部新任教員へ教育学部の歴史、特色、教育学部が抱える課題等の内容説明
	教育学研究科	授業実践開発コース指導担当情報交換会	R2. 12. 17	授業実践開発コース院生の指導担当者	課題研究計画発表会、本コースの教育、研究指導について
	教育学研究科	授業実践開発コース指導担当説明会	R3. 3. 25	新旧授業実践開発コース企画委員、令和3年度授業実践開発コース指導担当教員	本コースの教育、実習指導について

	教育学研究科	教職リーダー コースFD	R3. 3. 14	15名	学習指導に関わる 実践と研究の在り 方
社会情報学部 社会情報学 研究科	社会情報学教 育・研究セン ター	FD講習会	R2. 12. 23	20名	「社会情報学部新 任教員研究報告懇 談会」
医学部 医学科	医学科教務部 会	医学教育教授 法FD	R3. 2. 13	120名	模擬授業（授業が 高評価の教員によ る）、特別講演（学 生の態度評価に関 する講演）
	医学科教務部 会	医系の国語表 現FD	R3. 3. 11	15名	科目の在り方や課 題設定、評価方法 について、現況の 紹介およびディス カッションを実施
医学部 保健学科	保健学科	第1回保健学 教育FD	R 2. 9. 15	75名	ベストティーチャ ー賞受賞者による 公開模擬授業を実 施
	保健学科	第2回保健学 教育FD	R 3. 3. 2	75名	日本看護学教育評 価機構の代表理事 により「看護学教 育評価の受審に向 けての準備に関する 講演」
医学系研究科	関東がん専門 医療人養成拠 点事業	オンライン・ ゲノム医療シ ンポジウム	R3. 3. 18	17名	ゲノム医療に係る シンポジウム
保健学研究科	該当なし				
理工学部 理工学府	理工学部	英語授業に関 するFD	R2. 9. 28 ~ 9. 29, 11. 25 ~ 11. 26	7名	英語による授業方 法に関する研修会
	大学院授業英 語化推進室	大学院授業英 語化推進室主 催 FD 講演会	R2. 8. 27	104名	これから大学院 授業英語化の準備 をする教員に向け て、経験者（理工学 府教員）からのア ドバイス
	大学院授業英 語化推進室	大学院授業英 語化推進室主 催 FD 講演会	R3. 3. 16	115名	大学院授業英語 化を先行している 他大学の講師によ る講演
	理工学部	前期公開授業	R2. 6. 15 ~	5名	教員相互の公開授 業（アンケート回 答者56名）
	理工学部	後期公開授業	R2. 12. 14~ R3. 1. 29	11名	教員相互の公開授 業（アンケート回 答者58名）

(2) FD活動に基づく自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
<p>大学教育・学生支援機構</p>	<p>【結果概要】 全学FD連続講演会では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度に急遽導入された「オンライン授業」について、後期での授業改善に向けて、各学部から推薦された教員による講演を行い、ノウハウについて教員間の情報共有を行った。 またベストティーチャー賞の学長賞受賞者による公開模擬授業についても、対面形式ではなく、Moodleを利用したオンライン研修として実施した。</p> <p>【課題】 全学実施のFDは、全教員に対して原則参加を周知しているが、時間・場所の制約もあり、実際には受講できない教員が多いことが、例年の課題となっていた。</p> <p>【具体的な改善事例】 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、結果的にオンラインでの実施となったこと及び期間を設けて動画を公開したことにより、受講者数を増やすことができた。</p>
<p>教育学部 教育学研究科</p>	<p>【結果概要】 附属四校園で行われた研究会や教育実習の授業を参観した教員からは、この活動をとおして、学生にどのような教育をすべきか、また、学校現場が抱える課題に対して自身の専門性を活かした研究課題についても考える機会になった等有意義なものであった旨の回答を得た。 教職大学院の授業実践開発コースでは、講座の枠を超えて指導担当教員が一同に会して、課題研究計画発表会の進め方や、次年度のコーススタッフと院生指導について、担当教員の負担軽減等について情報交換を行い、共通理解を深めることが出来た。また、担当教員説明会では、報告書要項や、実習の進め方について、新・旧企画委員、指導担当教員で確認を行うことができた。 教職リーダーコースでは、学習指導領域の研究者教員および実務家教員による、課題研究の指導の実際と課題点について報告があり、その内容をコース内の教員（客員教授を含む）間で共有することができた。</p> <p>【課題】 今年度は感染症拡大防止の観点から対面で会えることが少なく、院生同士の「情報共有」について苦勞したことから、そのシステムが最初から整っていると有難いといった指摘がなされた。</p> <p>【具体的な改善事例】 院生同士の「情報共有」については、対面授業再開を想定して院生室の整備を行った。オンラインでの情報共有の在り方などについては引き続き検討を行う。</p>
<p>社会情報学部 社会情報学研究科</p>	<p>【結果概要】 教育の質向上や授業の改善に結びついた。</p> <p>【課題】 全ての教員が参加することはできなかった。</p> <p>【具体的な改善事例】 全ての教員が参加できるよう、開催日（回数）について検討する。</p>

<p>医学部 医学科</p>	<p>【結果概要】 授業評価が高評価だった教員に授業や教材の工夫を紹介してもらい、またその教員の模擬授業を視聴することで、他の教員の授業改善につながるなどの意見が得られた。特にオンラインでのアクティブラーニングについて、具体例を供覧することができた。また、学生の態度評価について学外の状況を学び、本学への導入にあたって貴重な知見が得られた。医系の国語表現FDでは、令和2年度の振り返りを行い、令和3年度に向けて教材や課題、評価についてディスカッションも行った。</p> <p>【課題】 医学教育教授法に関するFDをオンラインで実施したことにより参加者が増えているため、今後もオンラインを用いたFDの実施について検討していく必要がある。 医系の国語表現は少人数教育であるため担当教員数が多いことから、定期的にFDを開催して教材や課題、評価についてしっかりと共有していく必要性である。</p> <p>【具体的な改善事例】 令和3年度もオンライン教育がメインとなることが見込まれるため、引き続きオンラインにおける教育方法について、教員に情報を提供していくためのFDを継続する。 医系の国語表現FDも毎年の開催を計画する。</p>
<p>医学部 保健学科</p>	<p>【結果概要】 第1回保健学教育FDでは、各授業担当教員の教育方法の工夫や改善を促し、自らの教育に対する質保証の主体としての自覚のため、ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業を実施した。 第2回保健学教育FDでは、保健学科における専門性の相互理解・尊重を確認し、高度保健医療専門職の育成に携わる社会的要請に応えるため、分野別評価基準の理解を深めた。</p> <p>【課題】 保健医療人の資質を高めるため、社会の変化に連動するニーズにあわせてカリキュラムや教育環境の改善に取り組むことが確認された。</p> <p>【具体的な改善事例】 保健学科教育課程専門委員会でカリキュラム内容を確認し、教育課程の改正を検討している。</p>
<p>医学系研究科</p>	<p>【結果概要】 前年度はコロナ禍により講師の招聘が中止となり実施できなかったため、群馬大学で行われたがん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プランに係るシンポジウムをFDの一環として位置付けた。</p> <p>【課題】 参加者数があまり多くはない状況であった。</p> <p>【具体的な改善事例】 参加しやすいオンラインでの実施などで参加者の増を図った。</p>
<p>理工学部 理工学府</p>	<p>【結果概要】 コロナ禍であったが、Zoomを活用するなどして実施した。</p>

	<p>【課題】 公開授業について参加者が少ない(ただし、アンケート結果では有益との意見が毎年一定数存在する)。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 公開授業について、教員が参加しやすいように期間を長く設定した。</p>

4. 学生等への意見調査（在学生，卒業（修了）生，就職先及び保護者など）

(1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	対象者・人数	内容
大学教育・ 学生支援機構	全学卒業時 アンケート	R2. 12 ～ R3. 3	令和2年3月 卒業生 675名 回答 (前年度 574名)	卒業生を対象にした，学生生活，教養教育科目等についてのアンケート調査
	全学修了時 アンケート	R2. 12 ～ R3. 3	令和2年3月 修了者 281名 回答 (前年度 267名)	修了生を対象にした，研究環境や進路選択の支援等についてのアンケート調査
	全学学習ふりかえり アンケート	R2. 12 ～ R3. 3	学部生 (卒業年次以外) 1,577名回答 (前年度 1515名)	卒業年次以外の学部生を対象にした，1年間の学習内容についてのアンケート調査
共同教育学部 教育学研究科	教育実習A及びB に関するアンケート	R2. 11	学部3年生及び一部4年生 234名	教育実習の充実度に関するアンケート
	教育に関する現況 調査アンケート	R3. 2	教職リーダー 講座 M2 院生 12名	教職大学院の教育についての充実度に関するアンケート
	課題研究報告会 オーディエンス・ アンケート	R3. 2	報告会参加 者・有効回答 数 14名	課題研究報告会の報告内容に関するアンケート
社会情報学部 社会情報学研究科	卒業時アンケート	R3. 2. 3～ R3. 2. 21	127名	学部生としての活動を総括するアンケートを実施
	修了時アンケート	R3. 3. 8	4名	院生としての活動を総括するアンケートを実施
医学部 医学科	医学科卒業時 アンケート	R2. 11	6年生 136名	学部独自の調査項目をカリキュラム評価委員会が設定し，6年次生を対象にカリキュラムや学生生活に関する満足度等を調査
医学部 保健学科	卒業時アンケート	R3. 2. 5	161名	今後における教育・学生支援の充実のために，卒業予定者を対象に実施
医学系研究科	該当なし			
保健学研究科	全学修了時 アンケート調査	R2. 12 ～ R3. 3	保健学研究科 修了者 (回答 37名)	大学院での研究，カリキュラムに関するアンケート調査
理工学部 理工学府	理工学部における 卒業時アンケート 調査	R2. 1. 18 ～ 3. 23	学部4年次 (回答者数 345名)	授業科目や課程に関する意見や満足度，進学先等
	令和2年度修了時 アンケート調査 【理工学府博士前期 (修士)課程】	R3. 1. 4 ～ 3. 31	大学院(博士 前期)2年次 (323名) 【回答者数 190名】	カリキュラムや研究に関する意見及び満足度，進路等

	令和2年度修了時アンケート調査【理工学府博士後期課程】	R3. 1. 4 ～ 3. 31	大学院（博士後期）3年次（50名） 【回答者数20名】	カリキュラムや研究に関する意見及び満足度、進路等
--	-----------------------------	---------------------	--------------------------------	--------------------------

(2) 意見調査に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
大学教育・ 学生支援機構	<p>【結果概要】 全学共通のアンケートとして、例年実施している「卒業時アンケート」、「修了時アンケート」及び卒業年次以外の学部生を対象とした「学習ふりかえりアンケート」を実施した。</p> <p>【課題】 学生を対象としたアンケートが増加傾向にあるため、学生の負担軽減と回収率の向上が課題である。</p> <p>【具体的な改善事例】 アンケート回答期限の1週間前に、対象学生に対して教務システムから回答依頼のメッセージを送信した結果、いずれのアンケートにおいても前年に比べて回答数が増加した。</p>
共同教育学部 教育学研究科	<p>【結果概要】 実習の充実度、実習期間の設定、実習A（基礎実習）における経験をB実習（応用実習）へ活用できたかについて、おおむね9割以上の学生が肯定的な評価をしている。また、実習校への割り振りの満足度はおおむね8割以上の学生が肯定的な評価をしている。 教職大学院の学修における自身の満足度については、多くの項目で期待する水準まで到達できたことが示された。特に学習支援の方法や教育効果の評価、自分の課題についての研究能力や実践力が身に着いたとする回答が多かった。 課題研究報告会については、オンライン開催ということで気軽に参加することができたとする声が多かった。学外からの参加者が一定数いることはひとつの成果でもある。</p> <p>【課題】 全体の割合に比べればわずかであるが、実習期間設定と実習校の割り振りについては満足度が低いとする学生がいる。 関連し、実習を受け入れる学校について、様々な理由から実習人数を縮小する学校が出てきていることも事実である。 課題研究報告会については、オンライン開催のメリットを生かすためにより広い範囲（全国の教職大学院、群馬県と県内市町村教育委員会、県内の小中高等学校）に開催案内を送ることが望ましい。また、アンケートの回答者が少ないため、今後はプログラムに予めアンケートのURLやQRコードを載せておくなどの工夫が考えられる。</p> <p>【具体的な改善事例】 実習期間等については、各実習校や教育委員会との調整が必要となるため、引き続き教育実習委員会において検討を続ける。 教職大学院の実習については、教職大学院の改変に伴って一新し、新しいカリキュラムで進めることとした。</p>

<p>社会情報学部 社会情報学研究科</p>	<p>【結果概要】 学部卒業時アンケートにおける「群馬大学社会情報学部でのあなたの学生生活は、充実していましたか」との質問に対し、「とても充実」「充実」と回答した者は社会情報学科で 96.1%, 情報行動学科で（回答者 1 名）で 100%であった。研究科修了時アンケートでのそれは 100%であった。 学部・研究科ともに、学生は学生生活に満足し、高く評価していることが伺われた。</p> <p>【課題】 大学院進学情報の提供について「あまり行われていなかった」「ほとんど行われていなかった」「わからない」と答えた回答者が、社会情報学科で 51.9%, 情報行動学科で（回答者 1 名）で 0%であった。</p> <p>【具体的な改善事例】 大学院説明会の案内等、学生への周知を検討する必要がある。</p>
<p>医学部 医学科</p>	<p>【結果概要】 低学年での病院・施設実習については、事前学習の不足により十分な効果が得られなかったという意見がみられた。6 年生用の学内の自習スペースの不足について不満の声が多かった。図書館が 24 時間利用可能であることは評価が高かった。</p> <p>【課題】 低学年での病院実習について、事前学習や日程について検討が必要である。 学内の自習スペースは不足気味であった所に加えて、新型コロナウイルス感染症対策として閉室した期間が長かったことが学生にとって不便であったと考えられる。実習スペースの開放について検討が必要である。合わせて、図書館の特別利用についても再開が望ましい。</p> <p>【具体的な改善事例】 学年での病院実習については、新カリキュラム導入の際に見直しを行い、事前学習や日程について変更を行った（2020 年度入学生より）。 6 年生は新型コロナウイルスワクチンの接種を行ったことから、令和 3 年度は 6 年生を対象に自習スペースの開放を行っていく。</p>
<p>医学部 保健学科</p>	<p>【結果概要】 平成 29 年度から全学の卒業時アンケートを実施することになったため、同年度から保健学科独自の卒業時アンケートも実施している。</p> <p>【課題】 保健学科としては「保健学科で得たものは何ですか。」との質問事項において、「表現力・プレゼンテーション能力」に該当しないとの回答が多かったため、この能力をどのように伸ばしていくかが課題になっている。 また、保健学科の学習により身につけた項目を問う質問においては、「保健医療者に必要な知識と技術」「人間の尊厳を尊ぶ心」「将来にむけて、意欲を持って自らを向上させる力（自己開発力）」「チーム医療の担い手として、他者との相互理解や協働関係の構築ができる力」「医療が直面するいろいろな課題に対して、様々な立場・視点から柔軟に考え、判断し、対応するための基礎的な能力」は 8 割を超えていたため、学生の目標は概ね達成しているものと判断できる。</p>

	<p>【具体的な改善事例】 保健学科教育課程専門委員会で、ディプロマ・ポリシーとの関連や今後の改善策について検討し、経年変化を分析する。</p>
保健学研究科	<p>【結果概要】 昨年度に引き続き「研究について、相談にのったり支援してくれる人がいた」「教員の指導に基づきながらも、自主性を尊重されて研究を進められた」等の教員の指導や研究に関する設問については「まああてはまる」「とてもあてはまる」の比率が高い。</p>
	<p>【課題】 昨年度に引き続き教育ポリシーについては理解度が低いことがわかった。また、本研究科の過去の就職の実績を評価して入学する学生や、本研究科を修了することが職業につながると感じている学生の比率が低いことがわかった。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 入学説明会等の場で本研究科修了後にどのような就職の機会があるか説明を増やす。なお、パンフレットには既に修士卒と博士卒の就職先の具体例を全専攻の合計としては公表しているが、他大学ではもっと積極的に専攻毎の公表を行っている例もあるため、修士卒と博士卒について専攻毎の就職先開示も検討してゆくべきと考えられた。</p>
理工学部 理工学府	<p>【結果概要】 理工学部アンケート調査において、ポートフォリオ作成を開始した入学年度学生が卒業年度に達したため、ポートフォリオの有用性に関する質問項目を追加した。</p>
	<p>【課題】 学科により、回答率に差がある（回答率が低い）</p>
	<p>【具体的な改善事例】 回答率を上げるために、教務委員会等を通じて各学科へ協力を求める。</p>

5. 学外者の意見や第三者評価等の結果の活用

(1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	概要
大学教育・ 学生支援機構	該当なし		
共同教育学部 教育学研究科	教育実習A, C, D運営 協議会, 教育実習B運営 協議会	—	教育実習前の意見交換（教育委員会, 実習校） ※例年7月に実施している本協議会について, コロナ禍のため中止とした。
	教育実習A, C, D研究 協議会	R2. 11. 4	教育実習後の意見交換（教育委員会, 実習校）
	教育実習B研究協議会	R2. 12. 2	教育実習に関する意見交換（教育委員会, 実習校）
	教職大学院連携協議会	R3. 1. 27	教職大学院における課題研究実習に関する意見交換 （教育委員会, 実習校）
	教職大学院教育課程連 携協議会	R3. 1. 27	教職大学院における教育課程に関する意見交換 （教育委員会, 公立学校長, 公立学校教諭等）
社会情報学部 社会情報学研究科	該当なし		
医学部 医学科	カリキュラム 評価委員会	R2. 6. 12 R3. 1. 31 R3. 3. 1	他大学教員, 群馬県関係者を外部委員に委嘱し, 委員会で情報共有や意見交換を行っている
医学部 保健学科	スーパーバイザー会議 (教育実習運営協議会)	R2. 7. 10	臨床実習の運営等についての協議
医学系研究科	該当なし		
保健学研究科	該当なし		
理工学部 理工学府	学外委員による外部 評価委員会	R2. 12	学外の委員(企業, 大学, 高専など)によるカリキュラム等に対する評価・意見交換。コロナ禍のため書面開催(機械知能システム理工学科)
	外部評価アンケート (官公庁, 民間企業)	R2 年度末	JABEE 審査項目にある外部評価として, コース卒業生の就職先である官公庁, 民間企業に対するアンケート調査(環境創生理工学科社会基盤・防災コース)

(2) 意見等に基づく 改善事例

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
教育学部 教育学研究科	<p>【意見・指摘事項等】</p> <p>実習生を受け入れた際のことについて, 実習校から, 実習生の授業の進め方や生徒指導等について, それぞれ意見・感想が述べられた。</p> <p>教職大学院連携協議会では, 実習生の受け入れについて, 実習校から, 実習生の授業の進め方や生徒指導等について, それぞれ意見・感想が述べられた。</p>

	<p>教職大学院教育課程連携協議会では、教職大学院の教育課程の全般について、意見交換が行われた。本年度受審した認証評価の評価結果案が紹介され、今後は評価結果を参考にしながら、教育課程についての継続的な検討が求められることが確認された。</p> <p>いずれも、特に改善を要する指摘事項はなかった。</p>
	<p>【具体的な改善事例】</p> <p>実習校からの意見を、教育実習委員会において検討し、実習方法等の見直しや学生への指導を行う上での参考とした。</p>
医学部 医学科	<p>【意見・指摘事項等】</p> <p>外部委員から、時代の変化や社会からの要請に応じた使命やポリシーの見直しを行うPDCAサイクルの設定が必要ではないかとの指摘があった。</p>
	<p>【具体的な改善事例】</p> <p>定期的に使命やポリシーの見直しを行う仕組みを検討していく。</p>
医学部 保健学科	<p>【意見・指摘事項等】</p> <p>理学療法学専攻及び作業療法学専攻においては、実習済施設並びに実習予定施設の実習指導者から指導を受けるため、スーパーバイザー会議を実施した。</p>
	<p>【具体的な改善事例】</p> <p>リハビリテーション分野での教員の教育力を更に高めるため、臨地実習現場との連携を深めた。</p>
理工学部 理工学府	<p>【意見・指摘事項等】</p> <p>カリキュラムや講義内容に対して意見をいただき、コロナ禍における人材育成について提案があった。オンライン授業に対する助言・批判・改善提案など多数にわたる。</p>
	<p>【具体的な改善事例】</p> <p>(学外委員による外部評価委員会)</p> <p>継続されるであろうオンライン授業改善への参考とし、継続的な教育改善に生かした。</p> <p>(外部評価アンケート)</p> <p>コロナもあり、年度末にメールのみアンケートを行ったため、全回答数は昨年に比べて少なかったが、求人に来られた民間会社からの回答は昨年より多かった。</p>

6. その他 特記事項

特になし

7. 根拠資料

(「授業評価のアンケート用紙, 集計結果」, 「学生との懇談会の配付資料・記録」, 「FD活動の資料」, 「意見調査票, 集計結果」等)

学部等	根拠資料
大学教育・ 学生支援機構	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和2年度 前期 授業評価 (学びのリテラシー1) 集計表 2. 令和2年度 後期 授業評価 (学びのリテラシー2) 集計表 3. 令和2年度 前期 授業評価 (データ・サイエンス) 集計表 4. 令和2年度 後期 授業評価 (データ・サイエンス) 集計表 5. 令和2年度 学長と学生との懇談会 次第等 6. 令和元年度ベストティーチャー賞「学長賞受賞者による模擬授業」実施通知 7. 第12回 全学FD講演会「大学教育のグランドデザイン」開催案内 8. 令和2年度 卒業時アンケート 集計表 9. 令和2年度 修了時アンケート 集計表 10. 令和2年度 学習ふりかえりアンケート 集計表 ※自由記述なし
共同教育学部 教育学研究科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和2年度前期 授業評価アンケート 集計結果 2. 令和2年度前期 授業評価アンケート WEB画面 3. 令和2年度前期 授業改善報告書 様式 4. 令和2年度 学部長との懇談会 要望・意見・質問まとめ 5. 令和2年度 院生との懇談会に向けてのアンケート結果 6. 授業実践開発コース指導担当情報交換会 次第 7. 授業実践開発コース指導担当説明会 次第 8. 令和2年度 教職リーダーコースFD研究会 次第 9. 令和2年度「教育実習AおよびB」に関するアンケート 集計結果 10. 教職リーダー講座「教育に関する現況調査アンケート」_調査票報告書 自由記述付記 11. 教職リーダー講座 課題研究報告会オーディエンスアンケート 結果報告
社会情報学部 社会情報学研究科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和2年度前期・後期 授業評価アンケート 集計結果 (社会情報学部) 2. 令和2年度前期・後期 授業評価アンケート 集計結果 (社会情報学研究科) 3. 令和2年度 学部長との懇談会案内, 懇談会記録 4. 令和2年度 研究科長との懇談会案内, 懇談会記録 5. 社会情報学部新任教員研究報告懇談会の実施について (通知) 6. 令和2年度 社会情報学部 卒業時アンケート 集計結果 7. 令和2年度 社会情報学研究科 修了時アンケート 集計結果
医学部 医学科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和2年度教職員と医学科学友会による懇談会 資料 (授業アンケートの集計結果を含む) 2. 2020 医学教育教授法FD 次第 3. 令和2年度 医学部医学科 学びのリテラシー医系の国語表現FD 次第 4. 令和2年度 医学科卒業時アンケート 結果概要 5. 令和2年度 第1回カリキュラム評価委員会 次第 6. 令和2年度 第2回カリキュラム評価委員会 次第 7. 令和2年度 第3回カリキュラム評価委員会 次第
医学部 保健学科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和2年度 保健学科前期授業評価アンケート 集計結果 2. 令和2年度 保健学科後期授業評価アンケート 集計結果 3. 令和2年度 第1回保健学教育FD 出席状況 4. 令和2年度 第2回保健学教育FD 出席状況

	<ul style="list-style-type: none"> 5. 令和2年度 群馬大学医学部保健学科 卒業予定者アンケート 集計結果 6. 令和2年度 教育実習運営協議会 会議資料 7. 令和2年度 教育実習運営会議 資料送付について
医学系研究科	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2020年度 医学系研究科 授業評価アンケート（前期）集計結果 2. 2020年度 医学系研究科 授業評価アンケート（後期）集計結果 3. 2020年度オンライン・ゲノム医療シンポジウム 案内紙
保健学研究科	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2020年度 保健学研究科博士前期課程 授業評価アンケート（看護）結果 2. 2020年度 保健学研究科博士前期課程 授業評価アンケート（検査）結果 3. 2020年度 保健学研究科博士前期課程 授業評価アンケート（リハ）結果
理工学部 理工学府	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2020年度 理工学部 授業改善のためのアンケート（前期・中間調査）設問画面 2. 2020年度 理工学部 授業改善のためのアンケート（前期・最終調査）設問画面 3. 2020年度 理工学府 授業改善のためのアンケート（前期・最終調査）設問画面 4. 化学・生物化学科 授業改善アンケート集計結果に関わる学生との懇親会 報告 5. 令和2年度 大学院 理工学府長と学生の懇談会 次第 6. 大学教員対象「英語で効果的に教えるために」研修資料 7. 大学院授業英語化推進室主催 FD 講演会 次第（R2. 8. 27） 8. 大学院授業英語化推進室主催 FD 講演会 次第（R3. 3. 16） 9. 2020年度前期 理工学府・理工学部公開授業に関するアンケート 集計結果 10. 令和2年度卒業時アンケート調査（理工学部）集計結果 11. 令和2年度修了時アンケート調査（理工学府博士前期（修士）課程）集計結果 12. 令和2年度修了時アンケート調査（理工学府博士後期（博士）課程）集計結果

令和2年度 授業評価 実施状況一覧

		合 計		内 訳			
				前 期		後 期	
		実施科目(題目)	アンケート回収数	実施科目(題目)	アンケート回収数	実施科目(題目)	アンケート回収数
教養教育科目	学びのリテラシー	69	1,721	25	943	44	778
	データ・サイエンス	24	915	20	779	4	136
	小 計	93	2,636	45	1,722	48	914
専門教育科目	共同教育学部	916	5,403	396	3,520	520	1,883
	社会情報学部	184	2,762	70	1,662	114	1,100
	医学部医学科	47	1,675	26	914	21	761
	医学部保健学科	268	7,544	146	4,347	122	3,197
	理工学部	384	11,338	175	6,921	209	4,417
	小 計	1,799	28,722	813	17,364	986	11,358
大 学 院	教育学研究科	97	375	46	247	51	128
	社会情報学研究科	32	69	16	29	16	40
	医学系研究科	59	85	26	34	33	51
	保健学研究科	3	34	3	34	—	—
	理工学府	114	989	56	684	58	305
	小 計	305	1,552	147	1,028	158	524
合 計		2,197 (2,021)	32,910 (30,998)	1,005 (1,004)	20,114 (19,658)	1,192 (1,017)	12,796 (11,340)

※ () 書きは、昨年度の実績。